遠隔日本語教育の実践—淡江大学（台湾）とのジョイントエデュケーション

東京外国語大学大学院国際日本学研究院

林俊成

東京外国語大学は、遠隔教室設立をきっかけに 2004 年により台湾淡江大学と遠隔授業を始めた。その十数年間、授業時間中の同時開催を中心に多くのオンライン活動を行ってきました。2016 年度から、両校のジョイントエデュケーション計画により、授業時間外での本学の大学院と学部をまたがった遠隔日本語教育実習授業を開催した。本授業の目的は、インターネットによる日本語教育技法を学習し、実際の日本語学習者と対面し、日本語を教えることである。1 学期を通して、下記のない用意による 4 回の接続実習を行う。

1. 接続練習及び既習内容の会話練習
2. 用意された教案に基づいた教育実習
2. 自作教案を用いた教育実習
3. Web 教材を作成し、反転講義形式の教育実習

授業中には、上記の実習を行うための教材分析、教案作成および Web 教材作成講義を行う。本ジョイントエデュケーションは、今までと実施してきた遠隔授業と一番大きな違いとは、授業時間外で接続のため、教員は、接続状況や実施状況を把握することが出来ない。そのため、毎回接続後に、学生役の台湾側学生にアンケートを行い、授業中に内容を検討した。また、日本側教師役学生にも、接続 2 回ごと台湾学生にフィードバックした内容に対して、感想文を送った。また、4 回終了後に台湾側学生が感想文を書き、それを共同添削により、台湾学生の作文の問題点を確認した。さらに、お互いに授業に対する緊張感を高めるため、終了後、日本側学生は、採点しその成績が台湾側学生の授業成績の 1 割を占めることにした。

本授業を評価するために、終了後、両側学生に対して ARCS 動機付け理論による評価を行った。結果は、下記のとおりである。

	ARCS による調査(5 点満点)	日本側	台湾側
注意喚起	1. あなたにとってこの授業は、魅力的だった？	4.5	4.5
	2. このタイプの授業は、面白かった？	4.4	4.5
関連性	3. この授業では、やりがいがあった？	4.8	4.6
	4. この授業では、あなたのチャレンジ精神がくすぐられた？	4.3	4.1

自信	5. この授業によって、あなたは（日本語を教えること/日本語を話すこと）に自信をついた？	3.9	3.8
満足感	6. あなたにとって、この授業で満足感をえられた？	4.4	4.3

全体的高い評価点を得られたが、日本語を話す/日本語を教える「自信」の項目について、比較的に低かったが、4回だけの実施に対し、両方とも3.8評価点であったので、いい成果だと思う。また、台湾側学生の語学技能に対するアンケート内容から見ると、文法能力とライティング能力の向上の評価点は、比較的に低かったが、リスニング能力、スピーキング能力および語学力の向上とも4.5ポイント以上あって、本授業は、語学教育に役に立つことがわかった。今後、さらなるアンケート内容を分析で授業改良を行い、引き続き評価していきたいと思う。